

2014年10月3日

慶應義塾大学 SFC 研究所

**慶應義塾大学環境情報学部田中浩也准教ディレクターとしてかかわった
「第1回アジアファブラボ会議」が「2014年度 グッドデザイン賞」受賞**

慶應義塾大学環境情報学部田中浩也准教ディレクターとしてかわり、JICAの青年海外協力隊員である徳島泰さんが中心となり実施した「第1回ファブラボアジア会議」が日本グッドデザイン賞を受賞しました。

(1) 「第1回ファブラボアジア会議」について

JICAの青年海外協力隊員である徳島泰さんが中心となり実施した「第1回ファブラボアジア会議」の企画が持ち上がったのは今年始めのことです。フィリピンのボホール島に初のFabLabを立ち上げられたいという情熱を持たれたボホール州立大学の教員と学生が、SFCまでお越しになりました。そして、FabLabの機材から運営のノウハウまでを、1週間かけて集中的に学んで帰られました。

その際に、FabLabを通じてまさに生まれつつある日本とフィリピンの関係を起点に、さらにアジアの国々に広く開いていくアクションを起こそうという趣旨でこの会が企画されました。

結果的に、会議にはアジア8カ国から200余名が参加し、フィリピンのアキノ大統領も視察に訪れ、今後の支援を約束してくださるなど、大変な盛会となりました。熱気あふれるその様子はこちらのビデオにまとまっています。

<http://vimeo.com/104162473>

(2) 田中准教授のコメント

上記のようにして生まれた絆は、会議後もさっそく新たな展開を生み出し始めています。

大学院政策・メディア研究科の小林博人研究会では、FabLabボホールと連携し、ベニヤ板を使った保育園を現地に建設しました。

<https://www.facebook.com/bohol.veneer.project>

SFCでは、今後もフィリピンと連携しての、リサイクルやリユースに関する研究プロジェクトが構想されています。インターネット、デジタルファブリケーション、ソーシャルデザインの3つを繋いで地球上のあらゆる問題を解決していくのはSFCの使命です。

これからも、フィリピンやアジア各地のFabLabとの連携をより進めていきたいと考えています。

*なお、この会議を共催したCOI-T「感性に基づく個別化循環型社会の創造」も同時にグッドデザイン賞を受賞しています。

<http://www.g-mark.org/award/describe/41873?token=pFqwclhQEx>

【ご参考】

グッドデザイン賞とは

グッドデザイン賞は、1957年に創設されたグッドデザイン商品選定制度を発端とする、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨の運動です。これまで55年以上にわたって、デザインを通じて日本の産業や生活文化を向上させる運動として展開され、のべ受賞件数は39,000件以上にのぼります。今日では国内外の多くの企業や団体などが参加する世界的なデザイン賞です。グッドデザイン賞受賞のシンボルである「Gマーク」は、すぐれたデザインを示すシンボルマークとして広く親しまれています。

お問い合わせ先

慶應義塾大学湘南藤沢事務室学術研究支援担当 〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤 5322

TEL:0466-49-3436

FAX:0466-49-3594

mail:kri-pr@sfc.keio.ac.jp